

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105325		
法人名	有限会社メディカル葉山		
事業所名	よなわグループホーム		
所在地	長崎市岩屋町25-7 4階		
自己評価作成日	令和元年10月11日	評価結果市町村受理日	令和2年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和元年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念やサブ理念に力を入れており心にみな留めて働いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「家庭的な雰囲気の中で安心した生活の実現をめざす」を掲げている。昼食時の利用者同士が寄り合う姿や職員との会話からアットホームな共同生活の様子が窺える。食事は手作りであり、月末には「お寿司の日」を設け、食事が楽しみとなるような取組みは、理念に通じている。介護計画では、事業所独自の「できる・できない表」を活用したスムーズなモニタリングを実施しており、PDCAサイクルが確実に回るような工夫が見られる。利用者との会話から得た情報は、基本情報シートに書き加え、定期的に更新しており、利用者の人生に寄り添う丁寧な支援を行っていることがわかる。花見は数回に分けて全員が出掛けており、介護度によらず、全員に楽しんでもらうという事業所の姿勢は高く評価できる。職員がチームワーク良く利用者の安心のために取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念やサブ理念を各々心に留め理念の実現に向け日々取り組んでいる。	開設当初からの理念とサブ理念をホーム内に掲示し、令和最初の「よなわだより」にも理念を表記している。職員は、利用者が安心できる生活の実現に向け支援しており、家事を一緒に行ったり利用者本人が納得できる声掛けに努めている。ただし、理念を職員全員で再認識する機会がない。	理念はホームのめざす根本的な考え方である。新人職員への周知や実践状況を振り返り等、理念の共有や意識付けについて工夫・検討が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校の生徒がホームに来られ交流したり、近隣の中学校へ行き交流している。	地域の情報は運営推進会議で得ている。利用者は建物内の他事業所で小学生との交流の機会がある。職員が小学生対象の認知症サポーター養成講座の寸劇に出演し、普及活動に協力している。また、消防団協力事業所となっており、非常時には車椅子を貸し出す役目を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	エレベータ内にホームの紹介を掲示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各階の出来事や状況をお伝えし情報を提供している。	年6回、法人3事業所合同で実施している。活動内容や誤薬・転倒等事故の報告を行っている。事前にテーマを決めたり、デザートビュッフェ形式を取り入れたりと出席しやすくなる工夫が見られる。会議では、地域の情報が多く寄せられている。ただし、利用者の家族代表の参加がない。	運営推進会議において、家族の率直な意見をサービス向上に活かしてゆくことは、重要である。家族への参加の呼びかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。	認定更新等の書類提出は郵送しているものの、指定更新申請や事故報告等で窓口に出向しており、不明な点を質問したりアドバイスをもらっている。担当課員が定期的に利用者の面会に訪れており、年1回介護相談員の受入れを行う等協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はできるだけしないようにしており、やむを得ない場合はご家族に了解をとり身体拘束を行う事がある。	3ヶ月に1度、身体拘束廃止検討委員会を開催しており、DVD教材を基に研修を行っている。転倒リスク回避のため、1日のみ4点柵を設置した記録がある。職員の言葉遣いに関する苦情から接遇研修を実施しており、認知症への理解を深め、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを整備し、管理者・職員一同で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングの場において利用者様の権利擁護の重傷性について確認を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者が利用者・家族へ契約時に十分な説明を行って、理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明時に必ずご家族の要望や意見を機器サービス計画にも反映している。	ホーム便りと共に、運営推進会議の議事録を送付している。家族の来訪時にはお茶を出しコミュニケーションを図っている。家族から職員の言葉遣いに対して苦情があり、今後研修を予定している。その他食べ物の持込について要望が挙がり、実現している。利用者からも散歩や買い物に行きたい等の要望があり、支援に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や運営推進会議で各部署の意見報告を出している。	シフトを決める際は、子どもの学校の行事等を尊重しており、働きやすい職場環境である。また、外部研修の機会を多く設け、職員を育てる姿勢が窺える。会議では職員から活発に意見が出ている。感染症委員会や行事の係、ホーム便りの係等業務毎に担当を決め、職員が自発的に運営に関わることができる体制を取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務条件の内容やその変更についての取り決め文章でもって示されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	さまざまな研修の機会を設けて、知識の向上やスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、十分ではなかったが、今後改善点として取り組むよう計画中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話、要望に耳を傾け安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の面会時にはご意見や要望など伺って信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人やご家族の要望を聞き、より良いケアをめざしてサービス提供を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に頂いたり、洗濯たみを共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者様の近況を報告し本人と家族の間が少しでも深まるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者様などについて面会后話題とするなどし利用者様の感情の安定を図っている。	家族の協力のもと、法事で帰宅する利用者や毎月外泊する人がいる。面会には、友人も来ており、楽しいひと時を過ごしている。携帯電話を使用する人や趣味の編物をする人もいる。職員は、利用者との会話の中で気づいた点を基本情報に書き加え、共有化を図り、馴染みの関係継続の支援に活用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御本人達で会話ができており話が詰まった時は話題のきっかけを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ときおり、契約終了後にも入院先などで経過をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様や御家族へ今までの暮らしや趣味希望する事を聞きできる限り把握できるように努めている。	職員は、利用者と1対1になる際に、思いを聞き取っている。介護度が高い利用者であっても、自らの気持ちを職員に伝えている。その日着る服を自分で決める人の意向を尊重している。定期的に、利用者の基本情報を更新しており、過年度のものと共にファイリングし、一人ひとりの思いや意向を把握する支援に活用する取組を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで御本人、御家族から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しの変化も気付けるよう個人記録に記入して申し送りなどで職員は情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向は事前に把握し毎月のカンファレンスで関係する職員が積極的に意見を述べ計画への反映に努めている。	計画を見直す際、本人と家族の意見や要望を汲み、長期1年短期6ヶ月の目標を設定している。リーダー職員が本人の一日の状況を記録した「できるできない表」を基に、3ヶ月毎にモニタリングを行い、ケース検討会で話し合い、現状に合った計画となっている。本人・家族の同意を得て計画を実行しており、PDCAサイクルが確立している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日報、バイタルチェック等に水分量、排泄を記録し申し送り等で職員全員が共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣のスーパーへの買い物に同行したり、御家族の状況に応じて通院介助の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、近隣の盲学校の生徒たちの施設見学など工夫して支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの継続のほか、協力医の往診、皮膚科は建物内にあるため職員が対応している。	24時間対応可能なかかりつけ医は継続しており、できない場合は本人家族の了承を得て協力医に変更している。協力医の往診の他、歯科衛生士による口腔ケアも行われている。病院受診は基本的に家族対応となっており、受診内容は都度報告があり共有している。救急搬送用の利用者情報を準備しており、職員は対応を理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の変化を注意深く観察して異常があれば報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には体調、生活習慣等をこまかに申し送っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、職員、家族と話し合っケアに努めている。	契約時に重度化した場合における重要事項説明書について説明し、署名を得ている。ホームでは夜間帯の支援体制が整っていないため、医療行為を伴う看取りは行わないこととし、状況に応じて主治医、家族と話し合い、他施設への移行等できる限りの支援に努めている。老衰等医療行為を伴わない場合は看取り支援を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の場合は連絡網を見て対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練を合同で行っている。消火栓、消火器、非常口の確認をしている。	年2回夜間想定での避難訓練を実施し、利用者も職員誘導の下実際に避難している。毎月、消火器や通報装置の取り扱い、避難経路の確認等自主訓練を行っている。ただし、消防署の立会いはなく、全職員が訓練を経験していない。災害マニュアルを整備し、非常時持ち出し品の準備はしているものの、自然災害時の訓練はこれからである。	消防署立会いの訓練を実施することで、専門家の評価や助言等得ることができる立場として、さまざまな状況を想定し消防署立会いの下での訓練実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレでの排泄時にはドアを閉めてプライバシー保護に努めている。職員は守秘義務の契約書を交わしている。	職員は、利用者を苗字にさん付けで呼んでいる。ホーム便りに掲載する写真については、書面で同意を取っている。昼間だけ使用するポータブルトイレの目隠しやパッド類の保管場所に利用者のプライバシーへの配慮が見られる。排泄の失敗時の声掛けは、利用者の自尊心を損ねないようにさりげなく行うことを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を聞いて自己決定しやすい支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつ時間は決まっているが、その他の時間は御本人の希望に合わせて心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問美容サービスを取り入れている。入浴時に洋服を選んで頂く事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけは職員が行っているが、テーブル拭きはして頂いている。食べやすい大きさにしておかずを提供している。	入居時に、アレルギーの有無を調査している。利用者の状態に合わせて、ミキサー食等に対応している。メニューは、和洋中と多岐に渡っている。誕生日のケーキ等の行事食に加え、ホットプレートで焼きそばを皆で作ったり、月末は、お寿司の日と決め、出前を取る等、食事が利用者にとって楽しみとなるような配慮が窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は往診時に医師へ報告している。不足している場合は栄養の飲み物で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後言葉かけし口腔ケアして頂く。困難な方は職員が行っている。定期的な歯科医師や衛生士の往診もしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	観察記録などを見てトイレ誘導している。	排泄の記録をつけているが、職員の誘導に頼ることなく、自らトイレに行く利用者が多い。目に見える改善事例はないものの、現状を維持している状況である。夜のみポータブルトイレを使用する利用者に対しては、介助を行い、スムーズに排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んでもらったり歩いたりしている。主治医のもと下剤の与薬している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせて湯温の設定をしている。	平均週3回の割合で入浴を行っている。脱衣所にはヒーターを置き、冬場のヒートショックを予防している。シャンプーは、利用者それぞれの好みの物を使用し、入浴後は保湿クリームにより皮膚の乾燥を防いでいる。やむを得ずシャワー浴のみの利用者もいるが、できるだけ浴槽に浸かることができるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコンで対応している。寝具は御本人様の希望に合わせて使っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をファイルに入れて分かりやすい所に置いている。臨時薬が出た際には申し送りノートに書いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべく居室にこもらないように洗濯たたみなどして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は近隣へ散歩。入居者様希望があれば近隣へ買い物に行っている。	日常では、近隣的大型店に買い物に出掛けたり、天気のよい日は、ベランダで日光浴を行っている。ゴミ捨ても利用者と共にっており、外気に触れる機会を増やす努力が窺える。花の名所に出掛ける際は、車椅子の利用者も含め、複数回に分けて実施しており、介護度によらず外出の機会を持つことができるよう支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本御家族様よりお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参している方は御家族と連絡取れるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった貼り絵を手作りで入居者様としている。	各ユニットのリビングではテーブルを囲み利用者と職員が談笑しており、共同生活の日常が垣間見える。キッチン前にはコーヒーを飲みながら寛ぐスペースを設けている。来客用スリッパは使用後天日干しし、衛生管理も行き届いている。清掃や空調管理は、職員が行っており、居心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カフェスペースを作ったり入居者様と会話されたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の希望を聞いて好みのものや使い慣れたものを持参している。	居室は日当たりがよく、備え付けの整理ダンスが家庭的な雰囲気を出している。持ち込み品に制限はなく、テレビや携帯電話、家族写真や本、靴棚等を持ち込んでいる。毎日の清掃に加え、エアコンと居室の床の清掃は、数ヶ月毎に専門の業者に委託しており、常に快適に過ごすことができる環境を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	以前分かっていた事が認識するのが難しくなってきたので声かけしている。		